「ねばり強く取り組む」には

木々の葉が少しずつ色づき、いよいよ秋深まる１１月を迎えます。１１月５日（木）に行われる小学校陸上大会に向けて選手に選ばれた６年生の皆さんは、最後の調整に取り組んでいます。２８日（水）に行われた壮行会では、全校の前で立派な姿を見せてくれました。残念ながら選手に選ばれなかった６年生も、それぞれのめあてに向けて一緒に頑張ってきました。その取り組みは決して無駄なことではなく、次のステージに必ず引き継がれます。行事を乗り越えるたびに、子どもたちの顔つきが頼もしくなっていくことを嬉しくそして誇らしく思います。

本校の今年度のめざす子供像の重点目標に「ねばり強く　取り組むそがっこ」があります。きっと陸上練習に参加した６年生の中には「ねばり強く取り組む」ことを意識した人がいるのではないでしょうか。学校生活の中で、担任から子供たちに「ねばり強く頑張ろう」「あきらめないでチャレンジしよう」と声をかける場面を随所に見ることができます。では、「ねばり強く取り組む」ためには、何が必要なのでしょうか。

１「スモールステップ」にわけて小さい達成感を積み上げていくこと

大きな目標や難しい課題も、細かく分解して「今日できること」「今の５分でできること」にすると、はじめの一歩を踏み出せます。明日も明後日も頑張れる目標を立てることです。

２「小さなできた」を自分で認めること

最初から完璧を目指すのではなく、「昨日よりここが進んだ」「ここまでは解けた」という小さな前進に目を向けることで、次へのエネルギーの活力になります。少し頑張ればできるゴールを設定して「できた」喜びを感じてそれを積み上げていきましょう。

３「失敗しても大丈夫」また立ち上がり前を向くこと

いつも成功するわけではないのが現実です。たくさん失敗してください。「教室はまちがうところだ」作：蒔田晋治　の詩に、「まちがったことをおそれちゃいけない」「まちがったことをワラっちゃいけない」とあるように、間違うことや失敗することは恥ずかしいことではないのです。成功するためには何度でも転んでください。そして起き上がり前へ進むときっといつか栄光のゴールが見えてきます。

４「声に出して頼る」こと

ねばり強く取り組むとは、最後まで一人で抱え込むことではありません。行き詰まったときに「ここがわからない」「手伝って」とまわりの友達や先生、家族に頼る力も、最後までやり抜くための大切な要素です。これも生きる力です。

失敗や途中の足踏みは、成長のプロセスそのものです。子供たちが「失敗しても大丈夫」「またやってみよう」と思える温かい視線を、学校とご家庭で注いでいきたいと思います。ご家庭でも、お子様が小さな努力を重ねている姿を見かけましたら、「結果」だけでなく「取り組んでいる過程」をぜひ褒めてあげてください。

一日の寒暖差が大きく、体調を崩している人が少しずつ増えているようです。食事で栄養をしっかり補給して、十分な睡眠を取って健康管理に気を付けていただければと思います。

校長　峰　成治